

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 2 月 22 日 (2007.2.22)

【公開番号】特開 2005-195545 (P2005-195545A)
 【公開日】平成 17 年 7 月 21 日 (2005.7.21)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-028
 【出願番号】特願 2004-4372 (P2004-4372)
 【国際特許分類】

G 0 1 B 21/20 (2006.01)

【F I】

G 0 1 B 21/20 1 0 1

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 12 月 27 日 (2006.12.27)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 9 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 9 6】

次に、図 5 に示す本実施形態の測定データと図 7 の測定データとを比較する。図 7 の場合は、本実施形態に対して、周辺部においては、線速度が同等 ($P_{m7b} = P_{m5b}$) である。また、被測定物 22 の半径方向の測定データの間隔も同等 ($P_{x7b} = P_{x5b}$) である。従って、周辺部の測定精度は同等である。一方、中心部においては、線速度が本実施形態よりも遅い ($P_{m7a} < P_{m5a}$)。また、半径方向の測定データの間隔は同等 ($P_{x7a} = P_{x5a}$) である。しかし、本実施形態の中心部の線速度 (P_{m5a}) は前述の許容範囲内である。従って、本実施形態の中心部における線速度は十分に遅いので、プローブ 2 が追従できずに測定精度が低下する問題は生じない。よって、実質的に、中心部において、測定精度は同等である。また、図 7 の場合は、本実施形態に対して、中心部における X ステージ 9 の移動速度が遅いので、測定時間は長くなってしまふ。従って、本実施形態は、図 7 の場合と比較すると、測定精度が同等で、測定時間を短縮する 3 次元形状測定を実現できる。